

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	国 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①単元で身に付ける資質・能力を「言葉の力」として示すとともに、一年間で学習する「言葉の力」をロードマップで示すことで、学びのつながりを実感できるようになっている。</p> <p>②「きせつの足音」として季節を表す言葉を、「言葉の広場」として項目別に分けて言葉を示し、語彙と文法に特化して整理されている。</p> <p>③情報の扱い方を関連する単元の前後に「情報のとびら」として配置し、「読むこと（説明文）」での学びを「書くこと」の学習に結び付けられるように整理されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①現代社会が抱える問題を取り扱った教材や、キャリア教育の視点から言葉を使って未来を切り拓いていく意義について、各界の著名人のメッセージが掲載されている。</p> <p>②「見通す」、「取り組む」、「振り返る」の3つのステップで学習の具体的な進め方が示されている。</p> <p>③学習に入る前に、その単元の学習過程を見通すことができるようになっている。学習のふり返りの視点が、「取り組む」の「めあて」と照応するように示されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①第2学年以上は、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間、小単元「情報のとびら」を配置し、両単元を関連させる学習が設定されている。</p> <p>②第1学年以外「季節の足音」として、季節ごとに季節の詩が掲載されている。第6学年で、古典芸能について紹介している文が掲載されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①学習の進め方とともに、思考ツールの活用やデジタルノートが示されている。</p> <p>②児童が読みやすい分量の文章と写真や図が結び付けられており、内容が理解しやすくなっている。</p> <p>第5の観点</p>

	<p>①個人の考えや思いを発表する活動は全学年で、話し合う活動は第3学年以上で系統的に展開されている。</p> <p>②題名やあらすじに加え、本の一部を掲載しており、児童の読書意欲を高める工夫がされている。</p>
<p>教 出</p>	<p>第1の観点</p> <p>①学習のめあてとどのような言語活動を通じて学ぶのか、目標とする力を身に付けるためのポイントは何かを短い文章で示すことで、どのような学習をして、どのような力が付くのか分かるように整理されている。</p> <p>②「言葉の文化」としてそれぞれのテーマに関わる言葉が示されている。また、「言葉の木」として枝に分類の観点、葉に分類された言葉を示し、整理されている。</p> <p>③情報の扱い方を「情報のまとめ」として巻末にまとめて示し、その巻に掲載の関連する単元やページを表記することで、使用場面を行き来したり、複数の教材で何度も活用したりできるように整理されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①児童が興味・関心をもちやすいようにするために、SDGsと関連した教材が取り上げられている。</p> <p>②単元の最初に学習のめあてを明記し、教材に合った具体的な学習の進め方や例が掲載されている。</p> <p>③指導事項と言語活動の2つの振り返りの視点が掲載されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①目次にその単元の目標が記載されている。第3学年以上には、「読むこと」の単元の1つにおいて、教材文を読む際の視点に気付くための導入教材が配置されている。</p> <p>②全学年「言葉の文化」として、言葉集めや詩・漢文が掲載されている。古典芸能については短い文で紹介され、文と動画のQRコードが掲載されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①3領域を教材名、単元名、身に付けたい力で整理し、SDGsとの関連が明記されている。</p> <p>②写真やグラフだけでなく、二次元コードからNHK for schoolなどの動画を視聴できるようになっている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①低学年段階から話し合い活動が展開されている。</p>

	<p>②各学年に読書のテーマを設定し、付録で様々なジャンルの本が紹介されている。</p>
<p>光 村</p>	<p>第1の観点</p> <p>①学習の流れを示したページに、問いと目標を並べて示し、児童の問いを目標へとつなげることができるように整理されている。</p> <p>②「きせつの言葉」として季節を表す言葉が示されている。また、「言葉のたから箱」として項目別に分けて言葉を示し、整理されている。</p> <p>③情報の扱い方について、関連する単元の前後に「情報」として配置し、各領域の学習活動を関連させることができるように整理されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①中学年までは、児童が日常生活の中で直面しやすい問題場面・問題状況を教材として取り上げているが、高学年では、多様性や環境など実社会と結び付いた教材が設定されている。</p> <p>②児童の問いから学びが始まる学習展開が設定されている。</p> <p>③「知る」「読む・書く・話す聞く」「つなぐ」の3つの振り返りの視点が掲載されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①目次にその単元の目標が記載されている。第3学年以上には、「読むこと」の単元の1つにおいて、教材文を読む際の視点に気付くための導入教材「練習」が配置されている。</p> <p>②第1学年以外「季節の言葉」として、季節の歌や詩、行事について掲載されている。第6学年では、古典に関する教材が数回に分けて掲載されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①領域ごとに学習の進め方を整理し、示されている。</p> <p>②文章だけでは分かりにくい事柄について、写真やグラフ等で説明されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①低学年段階から役割を意識したグループ討議が展開されている。二次元コードでモデルとなる話し合い方を動画で視聴することができるようになっている。</p> <p>②本の探し方・選び方に関する内容が掲載されており、多読につなげる内容になっている。</p>